

一月三〇日

九時製図の先生に関する人事会議。十三時卒業設計判定会議。卒計一番は石山研の学生であつたが客観的に見れば総崩れだ。六年制への移行の過渡期であると片付けられれば良いのだが。四月から大学の私の研究室は激変する。李祖原グライターと共に大きなスタジオを作り、プロジェクト中心の研究室とする。何とか学科の硬直化を打破しよう。

一月三一日

九時地下打ち合わせ。十三時ゼミ形式のミーティング。無理も無いがこんな時代に弾むような議論は起きようがないのではあるが、静かな水面に石を投げ込み続けているな。徒労と考えるか、いつか波風が立ってくれると思うか、それが問題であると、シエイクスピア風に嘆いてはみる。今日で正月も終わりか。正月は小さな現場が幾つも動いているのと、幾つかの計画案をまとめたのが収穫だった。作ることよりも大学の方の動きに見るべきものがあつたようだ。良い事なのか悪い事なのかは判断できぬ。

十八時三〇分馬喰横山あい鴨料理鳥八で工作社室内新年会。山本夏彦亡きあとの新社主山本伊吾&室内編集長鈴木その他オール室内メンバーと会食。安部譲二と私がゲストだった。上手い料理と酒を楽しんだ。「室内」新年会にて正月の締めくくりとなった。何だろつな、かくの如き集まりや約束等の会のスケジュールをこ

なしてゆく事と、私の本当にやりたい事とのスレ違いはあるのか、それとも無いのか。疲れて世田谷村に帰る。イヤな事があつて久し振りに本気でスタッフを怒る。ふざけるなつてーの。

二月一日

八時渋谷。中里和人と待ち合わせ、地下室スタッフと共に静岡山梨取材。一〇時半清水市。井木堅一さん七九才のガレージ見学、聞き取り。四〇年かけて二〇〇坪程のガレージのブリキの屋根にセルフペインティングしているモノを取材。誰も屋根に描かれた不思議な抽象画を見る者は居ないのに、コツコツと延々と錆び止めの為のカラフルなペインティングを続けた果ての空飛びじゅうたんだった。実に面白い。天空から神だけが見てる巨大な絵だな。由比ヶ浜の倉沢屋で桜えび丼の昼食をとり、52号線を北上甲府へ。十六時井上和弥氏のセルフビルドのコンテナ建築に到着。各種コンテナ三個を組み合わせた建築を取材。錆びたブリキや古材、そして山の中に捨てられていたオート三輪車等をブリコラージュしたもの。一九六六年生まれの井上氏のワビサビ屋は、若い人達に芽生えているような、廃屋趣味のようなものが上手に表現されていた。何なのかなこの古く滅びゆくモノに対する愛着の素は。総工費が二二〇万円というのには絶句したが、義理の父親が大工で友人達が四ヶ月手伝ってくれたらしく、その人件費を計算するとどうなるのか。水道屋に百万円ぶつたくれたのが口惜しいと言っていた。そうだろう総工費のほぼ半分を水道屋に持っていければたら誰でも唾然とするぜ。しかし、この小建築は世田谷村の地下の仕上げの方法に参考になる。二十二時前世田谷村に戻る。今日は一日で大きく富士山を一周したな。清水の井木さんからいただいたゴミ取り、大小、眼鏡入れ、風車付のオブジェなど持ち帰

る。明朝屋上にセットしよう。

深夜十二時半くらい、ニュースでスペースシャトルがテキサス上空で爆発らしいの報が伝えられる。セルフビルドのコンテナ建築を取材した後でこのような大事故の報に接すると、私たちの技術信仰の危うさを痛感する。宇宙に出て、そこから帰還するという高度な先端技術はどのようにして私たちの日常生活に反映されるのだろうか。それに費やされるエネルギーの総量の一部が日常空間を作る道具の開発に向けられたなら、生活空間の作り方、変化のさせ方はどれ程自由になり得るか、計り知れぬものがあるだろう。